



Micro Focus Server Express 5.0 J

SUSE Linux Enterprise Server 10 Intel x86

SUSE Linux Enterprise Server 10 IBM System z

動作検証 検証結果報告書

平成 19 年 1 月 16 日

マイクロフォーカス株式会社

1. 検証概要、目的及びテスト方法

1.1 検証概要

既に SUSE Linux Enterprise Server (以下 SLES と略記) 9 SP2 x86 および SLES 9 SP2 System z で動作保証されている Micro Focus Server Express 5.0 J を、SUSE Linux Enterprise Server 10 x86 および SLES 10 System z 上で動作検証しました。

1.2 目的及びテスト方法

Micro Focus Server Express 5.0 J は、現在 SLES 9 SP2 の Intel x86、IBM System z では動作保証済みです。

SLES 10 は、アプリケーションの使用する機能上の若干の制限を除外すると、SLES 9 からのアプリケーションの上位互換性を確保しており、既存の SLES 9 上のアプリケーションはそのまま動作します。従って Server Express 5.0 J もそのまま動作するはずで、今回、COBOL 言語の機能を網羅的に実行するテストスイートを実行することによって、このことを実際に検証しました。

テストスイートは、ANSI85 COBOL 構文を網羅的にテストするものを使用しました。これによって、COBOL コンパイラが使用するすべての CPU 命令、Linux システムコールを網羅できるので、万一 SLES 10 独自のアーキテクチャの非互換があった場合に検出できるものです。

2. 使用ハードウェア及びソフトウェア一覧

(1)

IBM System z9 Enterprise Class (2094-S28)
SUSE Linux Enterprise Server 10
Linux 2.6.16.21-0.8-default #1 SMP s390x
Micro Focus Server Express 5.0 J

(2)

AMD Opteron 2.2GHz 上の VMWare
SUSE Linux Enterprise Server 10
2.6.5-7.191-default
Micro Focus Server Express 5.0 J

3. テスト内容

ANSI85 規格 COBOL の言語機能の網羅テスト

以下の試験項目を、.int コードと実行形式の両方で実行し検証しました：

中核 94 本、順編成ファイル 85 本、相対編成ファイル 35 本、索引編成ファイル 42 本、ソートマージ 40 本、プログラム間通信 47 本、組み込み関数 42 本

4. 結果

4.1 インストール

Server Express 5.0 J の製品 CD-ROM から標準の方法でインストールすることができました。

4.2 デフォルト構成の変更

上記の方法でインストールした結果、.int コードと .gnt コードの実行については問題なく行うことができました。しかし、実行形式にリンクする時にエラーが発生します。これは、Server Express がリンク時に参照する GLIBC のパスが、デフォルトで SLES9 のものになっているためです。

これを解決するために、Server Express のインストール後に構成ファイル \$COBDIR/etc/cobopt を以下のように変更する必要があります：

```
-C nolist  
set GCC_LIB=/usr/lib/gcc/i586-suse-linux/4.1.0
```

4.3 テストプログラム実行結果

上記のテスト内容のすべてを実行し、問題は検出されませんでした。

5. テスト結果及び考察

SLES 10 Intel x86 および IBM System z を実行するサーバー環境で、既存の Micro Focus Server Express 5.0 J 製品を問題なく使用できることが検証できました。これをもって、弊社の正式な動作保証といたします。

以上